

2017年12月14日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 織田 由紀子

ウズベキスタン国ナボイ火力発電所近代化事業（フェーズ2）
（協力準備調査（有償））
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2017年12月1日（金）14：10～16：03
- ・場所：JICA 本部（1階 111 会議室）
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、織田委員、加藤委員、福嶋委員
- ・議題：標題事業に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配付資料：
 - 1) スコーピング案
 - 2) 回答表
 - 3) 別添-1 今後のスケジュール
 - 4) 別添-2 冷却水方式の比較表
 - 5) 別添-3 送電ルート代替案
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2010年4月）

全体会合（第86回委員会）

- ・日時：2017年12月8日（金）14:30～17:30
- ・場所：JICA 本部（1階 111・112 連結会議室）

上記の会合に加え、メール審議により助言を確定した。

助言

全体事項

1. ウ国のエネルギー戦略と INDC（自国が決定する貢献案）や NDC（自国が決定する貢献）を手掛かりに、エネルギーミックスにおける再生可能エネルギー開発計画と天然ガス火力発電利用の位置付けを確認し、本事業がウ国の CO2 排出削減につながるものであることを明確化し、DFR に記述すること。

環境配慮

2. ウ国においては、大気汚染の観点から、600MW 以上のガス火力発電所の場合、発電所敷地から 500m が衛生保護区域として指定され居住利用を推奨しない区域となる、とされている。既存のナボイ発電所から南側の Uyrot 村や Michurin 村までは約 400m、南西側の Yangiabad 村までは約 300m となっており、今回のプロジェクト（ナボイ発電所 3 号機）は 450MW 規模ではあるものの、周辺火力発電所からの累積影響も踏まえて、既設発電所の廃止等に伴い大気質の状況が改善する見込みがあるか、近隣住民の健康に影響の出るおそれがないか確認すること。
3. また、大気汚染防止対策については、費用対効果面も考慮しつつ、発生する NOx を抑制する技術及び煙突の高さを検討し、確認された将来の予想される大気質の状況を踏まえて、必要に応じて排煙脱硝装置等の採用も検討すること。
4. 工事に伴う樹木の伐採が生じる場合は、調査の上、必要に応じて緩和策を検討すること。

以上